第２回
第３期鳥取市中心市街地活性化基本計画検討委員会
議事概要

日　　時：平成２９年７月３日（月）１５：３０～１７：３０
場　　所：市役所本庁舎４階第２会議室
出席委員：委 員 長長、桑野副委員長、英委員、玉木委員、渡辺委員、成清委員、中村委員、中島委員、木谷委員、徳田委員、山口委員、杉本委員、赤山委員、土橋委員、安田委員
事 務 局：中心市街地整備課
オブザーバー：経済観光部

報告・協議事項
（１）第１回委員会議事概要
・第１回委員会の議事概要と主な意見に対する回答
（【資料１】、【資料５－４】、【資料５-５】、【参考資料１－１・１-２】により事務局説明）
（２）第３期計画認定に関する国の意見等及び対応（【資料２】により事務局説明）
（３）中心市街地活性化に関するアンケート結果（【資料３-１】、【資料３-２】により事務局説明）

[委 員 長]ただ今の説明に関連してご質問、ご意見等があれば。

[徳田委員]資料２の方で内閣府から回答をいただいているが、回答をいただくに提出した資料はあるか。

[事 務 局]前回の資料を出したが、若干資料に手を加えたもの。第１回委員会資料４－１となり、基本方針①はそのまま国に提出したものだが、基本方針②はこちらの方で修正を加えさせていただいているもの。指標の方は、国に提示したものは歩行者通行量とか新規開業数で前回と仕様を変えずに出してしまい、その点で指摘を受けた。基本方針②資料については事務局で修正を加えて、そこに目標指数を例で挙げているが、その中で検討している状況で、検討委員会の資料として提示させていただいている。

[土橋委員]今に関連して、資料２の中に「⑥観光、交流などを強調していくはどうか」とあるが、市として考えているのか。というのも【資料５－５】を見るとあまり観光、交流の事業がないのかなと思う。

[事 務 局]あとで、どういう方向性でいくかは説明するが、観光に特化したものがなかなか見えなくなっている、基本的には城跡復元整備に合わせた観光推進ができないかと思うが、事業としては弱いところでて、他の都市で、例えば金沢、熊本は観光を打ち出した計画をつくっているが、鳥取市では観光だけを押し出して計画をつくるのは難しいと思っている。

[木谷委員]今の観光に関してのことだが、鳥取民藝美術館の役もしているのでそういった意味で駅前の観光拠点として、旧吉田医院だとか鳥取民藝美術館、鳥取駅に観光列車が入るわけだが、こういった施設に周遊観光をする際のバスが止まりにくいとか様々な問題もあり、もう少し整備する必要があるだろうと思う。この中に位置づけてもらわないとなかなか進まないだろうし、そういった意味では駅前も反映していく必

要があると考える。2 核の中で仁風閣、城跡復元整備、駅前でいくと鳥取民藝美術館を中心とした観光があるわけで、そこは、きちんと位置づけをしてもらいたい。

[徳田委員]観光ということが難しいということだが、観光施設がないから難しいと多分思われるのだと思う。例えば、岩美町ではマンホールが観光となっているし、なにかしら魅力を考えて観光地にしてしまうという手もある。それは方法だと思う。あまりハードルを上げなくても、もしかしたらちょっとしたことでもヒントになると思う。誰かにゆかりのある地が点在しているだとか、そのようなものも観光地である要素ともなる場合があるので、あまり構えなくてもよい。軽いところから始めていくとなにかよいヒントがあるのかなと思う。

[事 務 局]今のせる事業がないか、特に新規性のある事業がないか、いろいろと庁内でも検討している状況です。みなさんにアドバイスをいただきたいと思っている。

[中村委員]先ほど、観光と交流の話がでたので、私が最初にイメージしたのがマルシェだった。その場所に特徴がなくてもイベント１自体に非常に特徴があれば、県外からも人が来るようなちょっと大々的なマルシェ。もちろん、そこに住んでいる人達もすごく楽しんで交流が生まれるといったところもあるので、その場自体に何か歴史とか特徴が無くても、そこに企画している人がいて、魅力的な出来事があって、そこに「華やぎ」があれば、定例的に毎週ではなくても、例えば月に１回だとか、1 シーズンに１回だとか、そういった特徴的なマルシェみたいなもので、企画すれば、スペースさえあれば、すぐにでもできるものもあるのかなと思う。そのようなアイデアもあるのかなと。

[委 員 長]私の方から１点、先ほど、国の方からも観光のアイデアをあえて出してもらっている。２期がある程度うまくいって、３期に向かうにあたっては、２期でうまくいったように見えるけれども課題は別のところにあるのだよといった掘り下げ、その結果として多分観光が弱かったんだよといったストーリーがあって、だから、3 期では観光だよといった２期との繋がりで観光を位置づけていかなければならないと思う。2 期からの観光への掘り下げって、なかなか、このアンケートとかを見ているとできなさそうな感じがしているのだが、どんなふうにやっていくべきか。何か方向性とか切り口とか、今のところお持ちか。

[事 務 局]【資料５】でどういった検証をして、それをこういった方向性にしますといった内容をこの後、説明したいと思っているが、前回、新規開業数を目標にする中で、新規開業はコンスタントに開業は起こっているが、空き店舗が減っていないということを報告した。よって、新規開業は起こるが閉店も起こってそれが均衡して空き店舗の解消に至っていないと考えている。このため、中心市街地での消費量が限られているものの中でそれを取り合っている予想を立て、中心市街地の消費額の増加に波及するようなことを考えていかなければいけないとした。その過程として、来街者を増やさなければならないつなごうと思っている。なので、今の段階では観光などで交流人口を増やして消費に波及させるという流れで素案を作成している。

[山口委員]アンケートの調査方法は、無作為に 4000 人を抽出されて、広範囲に渡ってのデータだと思うが、中心市街地にほとんど行かないとか半年に１回程度といった人が毎週来るとはとても思えない。でも今現在、月に１、２回程度以上の人々がもっとた

くさん連なって交流人口が増えるといった丁寧なアンケートの取り方といいうか、拠点ごとの実際来られているお客さんに対してアンケートを取っていって、もっとこういう形ならばもっと頻度があがるんだといった、範囲を狭めた形でのアンケートの取り方をされたことがあるか。３期の方針を作るにあたり、１期２期は広範囲にやってみたけど､なかなか活性化に繋がらなかったと､もっと足もとを見据えて、拠点ごとに力を加えて、店ごとにいろいろな検討を増やしていく。原点に立ち返るということで、再度、アンケートをとっていただくということはいかがか。

[事 務 局]２期計画を立てるときは個店では無くて、観光拠点で来街者に対して対面でアンケートを取っていたが、今回は郵送のみでそのようなアンケートはとれていない。個店といった要望があったので、今後、商店街の各組合と相談させてもらいながら、可能であれば、そのようなことも検討したい。もちろん、イベントなどの補助制度を創設していろいろなところで行っているが、そういったところに来られた方々のアンケートを随時おこなっているので、そういったものも参考にしながら提示できればと思う。

[委 員 長]それでは、（４）鳥取市中心市街地活性化協議会の取り組みについて、成清委員に説明をお願いする。

[成清委員]すでに５番目にあたる議論が始まっているような感じがするが、３期計画に係る協議会の取り組みということで【資料４－１】と【資料４－２】をご報告させていただいてこの後の議論の材料にしていただけたらと思っている。

(資料説明)**【資料４－１】鳥取駅周辺まちづくり構想（案）ストレスのないまち【資料４－２】鳥取クリエイティブストリート構想（仮称）**

[委 員 長]ただいまの説明に関して、質問、ご意見等あればお願いする。

[中村委員]先ほど成清委員から説明があった野田先生の「鳥取クリエイティブストリート構想（仮称)」に私は結構共感している。多くの若者もそうだと思うが、自分自身が高校を卒業して鳥取を離れたはなれたきっかけ、先ず県外にでるきっかけは「学びの場」を求めて外にでることが多いと思う。わりと自分の知的好奇心を満たすような機会や場所がどうしても地方だと都会と比べて無くて、ギャラリーや美術館や博物館やセミナーとかいろんな方のご意見を聴いたり、体験をする場が非常に少なくてそれを求めて県外に出るということが非常に多い。こういった機会が多くありしかも皆に告知されるような活動になればいいなと思っている。特にこれから物が売れなくなる時代において、物より「こと」の方にお金を使う人も増えてくるし、子どもの数が減っても一人の子どもにかけるお金も増えていく可能性も高いと思う。じゃどこでどういうふうにお金をかけるのかといったきっかけづくりを、まちづくりの中のひとつの主軸として考えていただけると良いと思う。子どもだけではなくて主婦向けのカルチャースクールとか、そういったところも商業用の空き店舗の活用をもっとカルチャースクールとか塾とかそういった教育文化の発信の場として使っていただく方向は非常に有益かなと私も感じた。

[木谷委員]今の中村委員の意見に補足的に申し上げると、鳥取市内には幸いなことに民間ギャラリーが十数件ありこれらが非常によく活用されていて、しかもそれらはとてもクオリティーの高い運営をしていらっしゃる。全国的にも誇れるくらいの運営をされ

ていると思う。そしてそれらは２軸の方に点在しているので、そのような意味付けをすることもあるかと思う。創造都市ということもあるが、どうやって活性化していくかを活性化計画の中に位置づけられないと、なかなか民間だけじゃ厳しいところがある。どこかで後押しして欲しいといったところがあると思う。クリエイティブシティといったものがあって、その中にギャラリーというものが位置づけられていくといった考え方を共有したほうが良いのではないかと考えている。

［成清委員］クリエイティブというと美術とか工芸とかがわりと限られたところでイメージされる方も多いかと思うが、資料で２ページの下に書かれているように編集とか映像、美術、音楽、舞台芸術など広い範囲のなかでの概念がある。鳥取のある書店も東京でかなり有名ということだし、まあ、広く概念的なとらえ方をしたうえで、どういったところが鳥取で強みになる部分なのかというのを見定めて、最近のリノベーションの動きも後押しをしていくような、そうした３期への記載ができればいいのではないかと思っている。

［赤山委員］【資料４-１】【資料４-２】で事業が２つ示されているが、３期計画の事業案に入っていない。これはいつの時点で入るのか。入る、入らないの話はこの場で決めるのか。

［成清委員］現在、協議会の中でタマ出しをするための議論をしている状況なので、今日は方針とかテーマとかそういったことを議論するためのその部分に係る材料としてお持ちした。今日はこういったところで議論が進んだところをまた持ち帰ってこういったところのさらなるタマ出しとか、野田先生のご提案などもより具体的な事業になるように話をさせてもらっていきたいいと思っているところ。

［渡辺委員］【資料４-１】【資料４-２】については、中心市街地活性化協議会専門部会で検討されたもので、私なんかこれだけ見てもさっぱり意味がわからない。そういった中で、ちょっとヒントと言うか、「広域都市圏内住民の都市的ニーズを満たす」「鳥取駅半径３ｋｍ圏住民の日常的生活ニーズを満たす」とあるが、このニーズというものはどうやって捉えていくのかが大きな問題だと思う。半径３ｋｍ圏の住民のニーズ、どういった人々に日々来ていただくのか、そういう調査というものをどういった形でやっていくのか。自分たちに都合のいい感覚で思っているけど、そのニーズって本当にあるのだろうかといったことを含めて、そういった意味でなかなか難しい。たとえば、「こむ・わかさ」だと、半径１ｋｍのニーズを抽出しようとして店づくりをした。ということはまちづくりも、反対に言うと、１ヶ月、１週間、１日、毎日、それぞれどういうニーズが今あって、何に不満があって訪れないだろうかといったことをきちっと捉えていかないと自分たちが求めいくものもわからない。子育て子育てというがどういう年代の人が、どれくらいの人数が、どういうニーズを持っているかということを踏まえて、それに合ったものを作っていかないと新しいものはできない。もう一点は、ここにある個店、いろいろあるが、先ず一つはニーズに応えようとしたら、そう簡単にいかないという個店の問題があります。たけど、その中で業態転換というのは大きく店舗を構えて何でもできる。できることはいっぱいある。そういうことも含めてお客様のニーズに対して個店がどういうふうに考えているかというところを考えないといけない。

［英　委員］商業といった部分を見た場合、たとえば商工会議所の今は、どちらかというと鳥取工業会議所の比重が強くて、そういった部分で昔の商業といった力がぐっと落ちている。全国どこでもそうではあるがそれが現状。そういう中であらためて行政（市）がやるところと、会議所もしっかりとしなければならない部分があるように感じる。特に空き店舗などのマッチングとか、そういった部分をもう一回見直しながら、それぞれの立場で役割分担をしていく。ここはこちらがしようと行政にはこれをしてもらおうというようなことを先ず明確にしていく必要があるだろうと考える。昔の商工会議所と違って、商業が弱くなっている前提のもとでの話ではあるが。さきほどから話がでていた文化であり、観光でありというようなことをうまく取り入れないとこれからの中心市街地というのは難しいと思う。個店に頑張れと言ってもこれはなかなか難しいこと。うまく観光を入れそして文化の薫るまちなみを入れながらその中で商業といったものが発展していく。それが賑わいにつながっていくというようにしないとイベントだけに頼ってもこれは難しい。一過性で終わってしまうし。そういったことを一回考えてみる必要があるのかなと。特に後継者がいない場合にはうまく起業する人を入れ込むことも大事。ゼロからする必要はなく、5 合目からの登山の方がはるかに楽。顧客もあるし、そういったことなど我々がしなくてはならない。でも行政にこれはしてほしいとかもある。そういったところをもう一回改めて、整理をしてみるというのも大事ではないかなと考える。

［委 員 長］次に（５）３期計画における重点施策及び今後の取組概要（案）について事務局より説明をお願いする。

［事 務 局］【資料５－１】は現段階での計画の素案である。これをベースに内閣府に提出を考えていて、内閣府の意見を意識しながら作成したものとなっている。

(資料説明)【資料５－１】鳥取市　今後の取組概要（次期計画）

［委 員 長］主要事業のところは、Ｐ14、15 を見ていただければおよそイメージは伝わるか。

［事 務 局］そうだ。主要なものはＰ14．15 を見ていただければ。

［委 員 長］ただいまの説明に関連して質問、ご意見等あればお願いする。

［中村委員］Ｐ２で説明していただいた「街なか居住の推進」の中で空き家バンクの話があった。最近空き家バンクをの HP をぞいてみたが、結構魅力が低いと思っていて、本当に物件の最低限の情報のみが書いてあり、県外の人がこれを見たと思った時にその物件が回りの環境とかまちの魅力は何なのかということが見えてこなかった。特に子育て世代を誘致したいと思うのであれば、子育て世代の一番の関心事は教育。例えばその地区の校区の小学校とか、どの校区に何クラスの何人の学校があって、こんな街なかなのに 2 クラスだけで生徒数も少なく先生にしっかり見てもらえるとか、そういったなんらかの魅力が物件と関連づけてＰＲできると非常に良いと思う。県外の方も、安心してこういう環境だったら街中でもいいなって思えたり、ほんとにのんびりしたいからただただ郊外にというのではなくて街なかでもこういったのんびりとアットホームな感じで子育てできるんだよというようなＰＲができるといいなというふうに思えました。教育と関連付けていうのであれば、さきほどお話ししたが文化とか教育とかが学校の周辺にどれだけあるか、塾とかスクールとか習い事とかもあると非常にお母さんが安心できると思う。また、そういったようなスクー

ルというのは個人でも創業しやすいものなので、こういった文化とか教育がしっかりと儲けがでる仕組みをまちぐるみで作っていく。それで例えば、そういったスクールであれば、立ち上げ時に行政からサポートがあったりとすると手に職をつけている方とか経験者の方が教育で創業しやすいのかなと思ったりするので、そのあたり教育という点でプッシュしていただくとうれしいなと思った。

[桑野委員]関連して、空き家の話題がよく出るが、住むところが鳥取市にはないのか。住むところが無くて空き家が必要なのか、条件が合わないから、例えばマンションは家賃が高くて住めなくて空き家だったら住む可能性があるから空き家を解放しようとしているのかどっちなのかがよくわからない。例えば、空き家以外の店舗のリノベーションとかもお店を出そうと思っているけど、出すところが全然無くて困っているのか、お店を出したいけど今のままだと家賃が高すぎて出せないので安い家賃で探しているのか、どっちなのでしょう。もし、家賃をどんどん下げていく方向で空き家を活用するというのであれば、それは必ずしもプラスにはつながらないような気もします。つまり、今売りに出ているようないいところが売れ残る可能性がどんどん出てきてしまう。安いところばかりが売れていってしまうし、そうった物件を斡旋しているかのようにも見えてしまうで、空き家を無くすように働きかけるというのは防災とかいろいろな観点があるなかで空き家を有効活用することはよくわかるが、単純に住む人を増やしたいとか、店を出したい人が出せなくて困っているという観点で空き家を減らすというストーリーは場合によっては間違っているようにも思える。

[委 員 長]関連しているのですが、空き家対策も結構やってきた。何年もやってきて、一回、確認したほうがいいという気がしている。このまま空き家を流動化させようという方向に引き続きやっていくのか、やっぱり流動化のネックは所有者の意識にあって、これはなかなか変わらないので、そんなに高い目標は立てない方がよいのではないかとか。これまでの経験を踏まえて、一つの区切りとか検証をしてみた方がいいかなというふうにも思う。もちろん、先ほど中村委員がおっしゃたようにその情報が十分出ていないですとか、そういう指摘というのも当っていると思うので、それをひっくるめて一度確認し、そのうえで計画に載せるという手続きがあったほうがよいと思う。

[英　委員]駅前の方も空き家の中でもゲストハウスとか、一昨年秋にオープンして、やっぱり空き家対策は非常に大事だなとつくづく思う。このアンケートでも、中心市街地の印象についてどうしても空き店舗とかシャッター街だとかそういったイメージがあるので、そういったマイナスがプラスになることが大きい。空き店舗があるだけでマイナス。ゼロがプラスになるのではなくて、マイナスがプラスになるから、これは、空き店舗であれ、非常に大きな効果があるし、特に空き家に関しては何十年そこにあったものが一気によみがえるという部分では商店街エリアとしては非常によかったなという印象が強い。他にも何箇所か出ているが、そういった意味で、空き家・空き店舗対策はこれまで以上にウェートを置いていただきたいと思う。これがあったから結構、街なかもここまで持てたのかなという思いを持っているくらいだ。

[杉本委員]国がまず空き家対策ということで、法律を動かした。そのことによって、危険空き家の強制撤去というところまで踏み込めている。ただ、そうじゃない空き家に対しては、アプローチがやっぱりできない。憲法で個人の財産権というものが保証され

ているから。あと、空き家に対して市の条例とかそういったもので強化して対応するようにというふうに、国の法律でも手を突っ込めないところがある。空き家にもそれぞれ所有者がいる。所在不明者も多いが、未使用の建築物だとか土地についての、例えば、商業エリアについては利用しないとペナルティがつくような制度があれば、もっと利用促進が図れると思う。今の法制度の中では、そこを国、県、というような形でいくらか法律や条例の変更ということで動かしてきた部分があると思う。ただ、それ以上はまだ動かせない。市はそこにまで踏み込こうという気持ちはあるか。

[事 務 局]今、踏み込んでいこうという意識ではいるが、危険空き家でなくても、オーナーさんがそこにおられなくてなかなか連絡がとれないという現実がある。そこが難しいがでも使えそうなものはどんどん使っていきたいという意識でいて、今民間の方々と協力してアプローチをしようとしている。そして、この事業の中にも「既存ストック活用居住促進地域連携事業」があり、これまでまちなかでは自治会とあまり連携がとれていなかったので、そういったところとも協力して進めていきたいと考えている。また、最近国の方で空き店舗にペナルティを科すような、固定資産税を上げるといった方針を打ち出しかけていたようなこともあった。

[英　委員]あれはいいなと思っていて、空き家が流動化するのじゃないかと思う。

[事 務 局]そういったことからオーナーさんの意識が変わるかもしれないので、そこをサポートできるような何かができればと考えている。

[杉本委員]スローガンだけでは人は動かない。空き家対策といっても結局、法律で強制的に動かせた部分だけは、危険空き家というところで動いたが、それ以外の空き屋に対しての積極的な利用については今一つ動いていない。そこにアプローチをして入れ替えの促進を図るならもう一つ何か手段が必要。強制力が少し必要、そうでないと前に進まないという思う。空き家は基本的に中心市街地には結構あるが、その利用促進を図るためにはスローガンだけをかかげても前に進まない現状があるということを踏まえて、じゃあ何ができるのかという具体策を制度として作っていかないと難しいと思う。

[渡辺委員]今、色々と目標を立ててきているが、計画を立てても、例えば空き店舗が空いたまま。こういう使い方があるから貸していただけませんかと言っても、アイデアだけではなかなか進まないと思う。やはり担い手の育成や不足業種を誘致することが必要。担い手育成の部分は、お金儲けにならない。こういった部分についてどうやっていくかが課題。充実感や達成感がある計画でなければいけない。決めて、はいやりますじゃ良くなかった。また、同じことの繰り返しになる。目標も売り上げが想定されているが、この時代に売り上げを上げるということは大変なことだ。街なかで様々なイベントを開催し賑わいづくりをしているが、このまちに必要なものをつくるという形でイベントも開催する。しかも、継続性のあるイベントも大事であると思う。それはやっている本人では気がつかない。そういった部分を指南するなど街の担い手育成も考えていかなければならない。

[桑野委員]最初の方でマルシェの話がでましたが、ああいうのってすごくいいのは、やはり住民が楽しんで、その住民が楽しんでいるところを観光客がよって、鳥取らしいとい

うのはそこから出てきて、観光して喜んで帰るということ。観光客向けの何かをやるというのは今の観光学的にはかなり遅れていて、住んでいる人が一番楽しめるような何かがあって、その住んでいる人しかわからないような文化とかそういう中に人が入ってきて、あたかも鳥取がわかった気になって帰る・・・といった形が今の観光だと思う。それをどうやって作っていくのかを考えたときに、例えば、アンケートでいろんな人から意見を聴いてやるのではちょっと難しいと思う。一般事務の人がそういうことをできるかというと難しいし、ほとんどがサイレントマジョリティーでアンケートをとってもなかなか答えてくれない。そして、ワークショップとかいろいろな代表者に聞くとノイジーマイノリティーというか声の大きい人の発言がどんどん通っていってしまうというのもいろいろなところで問題になっていいる。結局、どうするかというと当事者であるけれどもなかなか喋ってくれない人のところに足を運んで延々と話を聞くということでしか、今方法がないと言われている。商店街でいろいろなイベントをするとかいうのは、結構たくさん良いことは起きているとは思うが、そこに参加してこないような商店街の人のところに足を運んで、なんで来てくれないのとか、こんなイベント、こんな事業を今度しようと思っているけどどう思いますというふうに本当の当事者でなかなか表に出てこない人に聴きに行くしかないのかなと思う。ただ、鳥取の中心市街地くらいだと、そういうのをやっても不可能な数ではないと思うので、いつも意見を出してくれる人はもちろんいろいろなところで聞いて、そのうえで、なかなか出てこない人たちにこういうのはどうですか、どう考えてますかってことを、可能な限りでまとめてみるのも一つやらなければならないことかなと思う。

[杉本委員]さっきの、イベントについてだが、イベントをすると人が集まる。本通りの商店街、若桜街道商店街でも歩行者天国になってイベントをすれば人が集まる。川端通りも本通りや若桜街道が歩行者天国になるときに合わせてイベントを年に何回かやっているが、その時は、どこからこの人たちは出てきたと思うほどお子様連れの方、ご家族とか出てくる。本来ならばあれが毎週あってこそまちの賑わい。本当はできると思うのだけど、何が問題かというとやっている私たちからするとイベントはボランティア。スタッフはみんな無償で働いてくれる人で成り立っていて、収益性もそれほどでプラスマイナスゼロよりは少しプラスがいくらか残るくらい。いろいろ経費がかからないようにやってかつ、人件費がかかっていないからだけど、どこのイベントもそうだと思う。人件費だとか本来そこに関わっている方の店舗の売り上げの貢献になっているだとか、というふうなイベントができているところは少ないのではないかと思う。本来ならもう少し、各個店の売り上げの向上に繋がるようなイベントであったりしないといけないし、人出を生まないといけないのにそうじゃないイベントで終わってしまっていたりする。だから、年に何回かしか実施するエネルギーしかない。本来なら毎月１回、毎週末でもあれば、まちの姿が違って見えるのだけれど、そこのところのイベントと、イベントを地の生活に落とし込むような作業がなかなかできなくてイベントだけで終わってしまう。イベントの在り方というものをもう一つ、商業に結びつけるようなやり方、少し工夫が必要なんだと思う。イベントはものすごく数が増えてきているが全部一過性で終わってしまっている。

そこの問題点をもう少し考えてまちの本当の賑わいづくりができると本物に近づくと思う。

[赤山委員]全体のテーマの話をしていいか。「人が集まり、暮らし、活力にあふれるまち」とあるが、どこのまちでも同じような、通用する話だと思う。確かにその通りだと思うが、もう少し鳥取らしさがあった方が良いのではないかと思う。観光面とかについて、リノベーションでいくつかやっていますがリノベーション関係で県外の方がこれからやろうとかやっている人が結構鳥取市内に来られる。他の県でやってた人が、色々と鳥取のスクールの状況を見たりとかして、ホスピテイルとかそういうところや、ことめやとか民藝美術館に行ったり、Y で泊まったり、で結構夜まで楽しんで満足されて帰っていかれる。それも勉強というよりも観光みたいに来て何人かの方々が、すごく満足して帰っていかれるのは、こちら側の「おもてなし」ができているからであり、要は人だと思う。おもてなしをする人がものすごく良いおもてなしをされるのでまた来てみたいと思う人が増えていってる気がしていて、それはなかなか、今回の目標の指標の数値には表れないことだが、なんとかそういうことが全体のテーマに表せないかなと思った。

[中村委員]先ほど、イベントが一過性だとかキーパーソンの話だとかそれぞれあったが、「まるにわ」で今、５～９月まで鳥取大丸の屋上で行われているビアガーデンの期間中、毎週土曜日だけ屋台バーの営業というのを関係者でやっている。みな本業がある中でそれこそボランティアでやっているが人件費が出ないので結構しんどい。やっぱり、シフトを組んでやっているがどうしても誰も出れないだとかあったりして、それを継続して毎週やるというのは本当にしんどいこと。でも、そういう意味で、大事なのはボランティアでなくて皆さんをうまいこと当事者にするしかけだと思っている。以前、鳥取に“柏の葉アーバンデザインセンター”の方が講演にいらっしゃった時に話された、すごく良いと思う仕組みが一個あったのでご紹介するが「柏の葉」もマルシェを定期的に開かれている。市民有志のボランティアをうまく絡めて、運営されていまして、それは無償ではない。掃除をしたりとか手伝ったりするとポイントがまちから付いて、そのポイントは該当するまちの商店で使えるという仕組み。お金がすごく高い訳でもないのですが、無償では誰も動いてくれないので、ちょっとですけどポイントが付くと。ポイントを貯めたら、お店で買い物ができますよ。街にもお金が落ちるし、手伝う人もなんかじゃあちょっと小遣い稼ぎにやろうかなくらい。でも関わっていく内になんか楽しくなってきて、ついつい、参加しちゃうみたいな。仕掛けがすごく上手だなと思って聞いた。うまくみなを当事者にしていく仕掛けみたいなものを束ねるキーパーソンがちゃんといて、そこがうまく回っていくと、小さな範囲でも試験的にでも何かまちづくりのモデルケースになっていけばいいなと思ったりした。

[委 員 長]色々と意見が出ているような気がするが、事務局としては内閣府との協議材料としては出揃った感はあるか。

[事 務 局]一つ気にしているのは、Ｐ８の基本的な方針と目標、指標のところが、おそらく内閣府としても一番関心のあるところだと思うが、今のところは観光を含む交流による経済活力の向上をいった中で、交流人口を増やす、そして回遊性を高め消費に落

とし込むという一つの流れと、居住の方は若者世代のまちなか暮らしの促進とまとめている。これが果たして本当にみなさんがしっくりこられているのかなといったこともあるし、来週事務局より内閣府に提示するベースになってくるところと思うので、そのあたりを今の案で良いのか今一度確認したい。また、先ほど、赤山委員から全体のテーマに関する意見があった。ひとまず、今の方針を単純にイメージに入れ込んだものがこのテーマで、最後は何か鳥取らしいものにまとめたいとは考えている。そういったことも含めて、残り時間でもご意見があれば。

[委 員 長]今回３期に向かうにあたって、言ってみれば２期の目標はほぼ達成したがアンケートを見ると、課題があるという流れだが、アンケートはかなり重要な役割を果たしているのか。というのは、この先に例えば、これら交流人口の増加や商業の振興だとかこういった数値をクリアーして、これはクリアーがアンケートはどうかといったときに、アンケート側でちゃんと改善していないと評価されないというか、そこを見られてしまうとか、そんなことはないか。

[事 務 局]３期を進めた後にアンケート上でも改善していないといけないのかという意味か。

[委 員 長]そうだ。この２期から３期に向かう時に、アンケートの位置づけ次第ではそういう議論もありえると思う。一般的にはアンケート結果で成果が表れにくいと思うが、今回、２期から３期へ切り替えるやり方というのが特殊ケースだと思う。なので、そのあたりが気になっている。

[事 務 局]今回、国のほうにアンケート結果を示していて、目標指数は達成しているが、アンケート調査を見るとやはりまだまだ賑わいがないだとかそういったところがあって 3 期をつくるきっかけづくりになるであろうと言われている。ただ、今度この３期を策定してその次にアンケートの結果はどうなっているのかというところを国の方に示していかなければならないかどうかといった点については、それほど重要視はしないのではないのかなとイメージはある。やはり、いかに的確な指標を立てて、それに向かってどのような事業を行って目標をクリアーしていくのか、そこが一番重要なところではないかと思っている。ただ、アンケート調査についてもやはり一つの目安であるので、そこを見ながら確認していくことが必要になる。

[委 員 長]承知した。冒頭で山口委員が話されたように「誰に評価してもらうまちにするのか」という視点で考えると、アンケートは怖い存在にもなると思う。30 万人でも何千人でも良いが、その中の 4 千人の人に並べて評価を上げてもらおうとするのはなかなか難しいんと考えると、少し的を絞るような議論をしておいてから、アンケートに向かう方が全体的な一貫性は上がるのではないかと思う。文化の話にしても特にそうだが、クリエイティブシティーの話も、すごく大衆向けというよりももうちょっとコアな響き方をするような類のものだと認識しているので、そういった整理が必要なのかなと思う。

[土橋委員]中心市街地の 45 歳未満の居住人口という目標について、実際、中心市街地に住めるようなところは何十か所もあるのか。促進するということはそこに住まなくてはいけないわけで、逆に紹介しなくてはいけない。紹介する物件が 47～50 もあってどうぞ来て選んでくださいみたいなものがないといけないと思うが。

[事 務 局]今、どちらかというと物件が無いというか、空き家が物件として出てきていない。

空いているところはあるのだろうが使おうとしても物理的に使えないというよりは、オーナーさんが貸そうとしていなくて貸してもらえないとか、そういった物件の方が多いと思っている。

[土橋委員]いろいろな事情があるのだろうが、実際にこうやって促進するということになると、ある程度は見込みがないといけない。50 件くらいはちゃんとあるといったような、何もないのに促進するといったってどうにもならない。ただ、私も自治会の関係で参加しているが、中心市街地に住んでいる人の数が本当に減ってきている。特に子どもたちの数が減っている。そういった中で 45 歳くらいの子どもさんがいる家庭がどんどん増えてくると当然、町内も活性化するし、小学校も活性化するし。地域というのは子ども達が増えると活性化するんだから、非常にありがたい施策なのだが、実際住むところが無いと。一方でマンションができて、マンションにはいっぱい入られていますけれど町内会には入られない。自治会に入られない方ばっかりなので、非常に難しい話にな。なんとかこの 45 歳くらいの居住人口が増えるのがありがたいので進めてほしいとは思う。

[事 務 局]平成２５年に自治連に協力いただいて、空き家と空き店舗の一斉調査を行った。その当時の状況では、中心市街地区域の中に少なくとも２００件以上は空き家・空き店舗はあるだろうということが分かった。そして、それはあくまでオーナーさんと自治会さんに協力していただいて出てきた結果であり、会長さんによってはあまり出したくないから出さないといったこともある中で出てきた数字だ。それでも 200 件は出てきたということは、おそらく実際にはもっとあるはず。自然減は今後も起こるので、おそらく今後も空き家は増えていくだろう。

[杉本委員]数が上がってもそれを流動化させていく何かの企画が必要。今の現状の法律では意思がないと動かないので、そうではなく外から何か動く要素をつけないと動かないというところに来ている。この何年か既存ストックの流通だとか、中古物件の流通だとかいろいろなことを国からずっと言い続けられて、法律の整備とかされてきたが、そこで動かない物件のみが残っている。そこをどうするかという問題。ではどう動かすかというと、意識改革だけでは無理なので、基本的に必要なものというと、条例といったことになってくると思う。今は鳥取市だけじゃなくて米子、倉吉、どこの地域も同じひな形でやっているだろうといった感じのものばかりしかない。鳥取、倉吉、米子で協議して県に上げて、県の条例にするとか、意見がまとまらなかったら、市の条例でなにかそういったものをつくるとか、そういったところの働きかけをしないと一歩進まないと思う。そこまで踏み込む必要があるのではないか。そのうち、いま、各都道府県や市町村単位でどうにもならないというものを、現状を踏まえて、国の方が動き出すかもしれないが。いつでも国が動かなければ、下が動かない状況ですから。本来、自分たちの足元が見えている市の方が先ずそのアクションを起こすべきではないか。

[成清委員]空き家の問題ですけど、鳥取の場合が家守会社とか智頭街道の街づくり会社のイチロクとか、そういった繋ぎをしてくれている人たちが成果を上げていると思う。そういった人たちの成果をしっかり評価して、やっぱり、間を繋ぐ人たちがキーとなると思うので、そういった取り組みというのを計画として位置づけるという

のも一つあるのかなと思う。なかなかこう 200 件ある空き家を一気にというのは難しいと思うので、1 件 1 件そうした取り組みを鳥取の場合は積み上げてきているわけだから、その動きのなかで計画を作った方がいいのかなと。

[桑野委員]空き家 200 件はわかったがそれに対して、出回っている物件はどれくらいあるか。

[事 務 局]出回っている物件を含めて 200 件だと思う。

[桑野委員]例えば、アパートで人が入っていない場所もあるしマンションで売りに出ているところもある。一軒家で空いていてなかなか売れないところもある。空き家はどんどん流動させるべきだとわかるが、それがだいたいどれくらいかということがわかると良い。私のすんでいる周りはアパートも空いているしテナント募集というところがいっぱいあ。

[事 務 局]既存でもう出回っている空間があるのに、そこに入っていない状況があるのではないかということですか。

[桑野委員]そうだ。それがいっぱいあるにもかかわらず、空き家を何とかしようというのであれば、空いているところにそもそも住んでもらえば良いのではと思う。

[事 務 局]ちょっとそこのデータは無いが、不動産業界に通じておられる杉本委員のご意見をうかがいたい。

[杉本委員]中心市街地だと例えば、市場に出されたものに対しては流通している。特に、地価は全国的には数値は上がっているが、鳥取の場合は、まだ商業地も住宅地も地価としては、年間 4 パーセントぐらいまだ下落していてまだ、この傾向は続くと思う。当然、人口が減少して、需要と供給のバランスが崩れている。だから総人口の割合の中の若年層の比率から言っても、高齢者層というのはある程度定着している層だから、若年層の割合が鳥取市の場合少ないので、やっぱり、需要と供給のバランスからいっても、これらからも需要がそれほど拡大する見込みが少ない。そうなると地価はまだ下がりますよね。だから、そういった意味で言えば、中心市街地も商業地エリアも含めて全部地価が下がっていく。そうなると郊外の住宅地との差が無くなるので、売り物があれば若い人は入ってきている。街なかに家を空き地があれば新築をする。ただ、売り物になる物件は本当に数が少ない。空き地で放ってあるものとか、空き家で管理されていないもの、未利用のもの、これをどう動かしていくのかがこれからのテーマだと思う。

[事 務 局]所有者に流通させるつもりがあれば、すぐ流通して、かつ住居だったら入ってきやすいような傾向があるということか。

[杉本委員]そうだ。流通は旧市街地に限って言えばまだ需要はある。ただ物件が出てこない。空き家の相談会を開いても相談に来られるのは中山間地域の方がほとんど。処分したくても処分できない、その地域を維持させる人口がいないところの物件なので、誰も引き受け手がないといった空き家相談がメインである。中心市街地に持っているけど使っていないとする相談件数はほとんどない。

[委 員 長]空き家の議論はだいぶ出ているが、交流人口の拡大に伴う小売年間販売額とか、その他の指標についていかがか。ちなみに販売額は街なかのエリアを絞って区域内の額を見るということでよいか。

[事 務 局]そうだ。今の値は経済センサスからの区域内だけを比較して見ている。

[中村委員]アンケート結果の重要性というか、どのように見るかといった話もあったが、この資料３－２のＰ10に「今後のまちづくりの方向性」があり、私が注目したのは子育て世代の３０代が一番注目している「明日を担う人材豊富な子育て・教育先進のまちづくり」という部分。30代は一番、各世代の中で回答数が多かったということで、３０代、一番子育て世代の真っただ中にいる人たちが一番気にしているのがここだとしたときに、明日を担う人材とか教育というのがまだ漠然としていて、何をもって素晴らしい人材とするのかみたいなところに鳥取の個性が出てくるのかなと思っている。例えば、こういう方向で子育て、素晴らしい人材を育てていこうというようなそのオリジナリティというかテーマによって事業の内容も変わってくるのかなと思う。鳥取の特徴といえば、切り口はいくつかあると思うが、食の都鳥取と言ってるくらいなので、安全な食、福島なども応援してあげたいがどうしても原発事故以降、西日本のお米がすごく売れているとか、食の安全性のことも今すごく言われている。都会の友人とかも食の汚染ということに非常に敏感になっているので、そういうといころでいくと鳥取で子育てしたいと思う方も多くいるかもしれない。他は、文化という切り口もあると思う。文化とか教育という切り口であれば、例えば鳥取大学や鳥取環境大学や、文化財団と意図的に組んだような事業を増やしていくといった方向性もありだと思う。もしくは、待機児童ゼロというところを謳うのであれば、今以上に保育園とか託児所が多いけど、お母さんとかがちょっと２～３時間買い物に行く時間を、いやカルチャースクールに行く時間を増やせるように単発で子どもを預けやすいところを増やすとか、幼児保育してくれるところを増やすとか。こういう子育てのメリットがありますよといった、鳥取としてテーマづけて特徴づけて、なにかこう魅力を鳥取に住んでいる人や県外に住んでいる人に発信できるような切り口が欲しいなと思った。ちょっとここの部分で魅力的な発信が出来ると、３０代の方々がこのエリアに住むメリットがあるなと直接的に思えるかなと。

[赤山委員]テーマと目標指数の案が上げられているが、それについて時間もないので、来週これであげていいのか、何か異論があれば出していただいた方が良いと思う。

[委 員 長]異論も含めて的を絞った話が聞ければ良い。これだけはといったご意見をこれから伺えればと思うが。

[徳田委員]Ｐ８の「多世代居住と交流の推進」がわかりにくい。「若年世代のまちなか暮らしの促進」を基本的な方針に持ってきた方がいいのかなと思う。

[玉木委員]Ｐ８の「交流人口の拡大による商業振興」で目標を小売年間販売額で設定されているのですが、私が多分内閣府の職員であったら、何かそこに結びつける施策をお持ちかとたずねるが、そこはどうか。

[事 務 局]正直言ってまだ弱いところ。これでいくと決めるなら、例えば来てもらって回遊してもらうにしろ、そこからどうやって消費に繋げるかというところが無いといけない。来てもらうだけではお金も落ちないということもある。個店の強化かもしれないし、何か別の方法があるのかもしれないが、そこについてみなさまからもアイデアをいただきたいというところだ。今ある事業としては、「インバウンド促進事業」。まだ、経済雇用の方で検討中ではあるが免税処置の一括カウンターと

か。商店街の中でどこで買い物をしてもある拠点で免税処置が一括でできるといったもの。また「クラウド会計推進事業」とか。そういったものを既存の個店に進めていったりだとか、セミナー等々になるか。あとは予定しているものを上げている状況。回遊する中でどう消費に落とし込むかといったところは考えていかなければいけないところだ。ただ、これまで稼ぐという視点の目標は設定してこなかったこともある。今回新しいものを打ち出す意味でも、経済の活性化ということでそれが商業であるべきなのかどうかは議論の必要があるが、設定できそうなものとして商業振興をあげている。

[成清委員]交流人口を増加させて、それを消費に落とし込むという戦略であるが、２期の時に積み残したものもある。特に城跡周辺の街なか観光拠点の整備とか、観光用の大型バスの駐車場の整備だとか、要は城跡整備して人が来るが、そこを救う事業が未実施で残っていると思う。駅南の低未利用地の活用については、駅周辺の専門部会で議論させてもらっているが、城跡周辺のこととか、また、防火帯の建物の老朽対策とか、その辺り、積み残していると言われたときにどういうふうに答えるか。

[事 務 局]未着手で止まっているものがあり、どうにも実現の可能性がないとなると、落としていかないといけないが、まだ取り組んでいく方向である。防火建築帯等も考えていかなければいけない中で、具体にどういったことが出来るか。計画策定段階で盛り込んでいけるかわからないが、でもせめて検討していくという何らかの事業は入れていって、継続して取り組んでいくという言い方になるのかなと思う。

[成清委員]課題はなくなっているわけではないので、もう少し視点を変えて議論をしてみるなど、そういうところでつないで国に提示していただけるととありがたい。

[木谷委員]市道山の手通り事業によって駐車場が２分する。では、城跡整備してバスが止まらないのにどうするほかと。瑞風によってどんどんＰＲはされるということを考えると、本当に考えないといけない必須条件だと思う。駅前地区も同じだが、それがないと難しいと思う。それはこういうふうにちゃんとカバーしますといったことが必要だと思う。

[渡辺委員]どうやって回遊をするのか、資源を有効に使うのか、何もないがどうするのか。そこが一番大きな問題だ。整備したらバスが来ると考えなくても良いと思う。観光バスで旅行するなんてのは限られたところだと思った方が良いと思うからだ。それと、拠点を整備して歩行者が増えていくのは当たり前。これに今までは観光スポットとして見られていなかった場所をＰＲし利用してもらい、全体として人が増えたなということが観光として必要。鳥取城跡だけでなく他とつなげていく。そうすれば、周辺を巡り歩いてもらうことができ、回遊性が向上する。満足していただければまた来てもらえる。そこが大きな課題か。例えばだが、施策効果の結果では無い売り上げが上がっても何の意味もないと思う。イベントでとにかく人が来ないからこれらの指標を出しておこう、という目標設定というのは難しいかなと思いう。

[山口委員]成清委員が出された中で市街地の半径 3ｋｍの住民の方に何度も来ていただく中心市街地であるために、何がたりないのかというニーズをしっかりと調査して、その、何があったら週に１回のが毎日来てくださるのか。その、何がというものをそれぞれ丁寧にあぶりだしそこに関連する個店にそのあたりを丁寧に後押しする。それこ

そ、冒険することはどの個店も怖いので、新しいものを仕入れる場合には市の方が少し補助を出すとかいったかたちで。そういうような方向性を少しずつ出すことによって、大きなものよりもちっちゃなところから少しずつ増やしていくということが本当の商業振興につながるのではないのかなと思う。丁寧なニーズ調査が一番必要なことかなと。

[委 員 長]時間も時間ですのでこのあたりで。言い足りないこともあるかも知れないのが、個別に事務局にご提案していただくという形でこの場はしめる方向にさせていただければと思う。内閣府への提案にあたって、色々と貴重なご意見をいただけたし、委員からも意見が色々出ているといった濃い話を国へしていただけるのではないかと思う。どんな宿題が来るかかわからないが、ひとまずはこれで提案してもらい、また、それを持ち帰ってきていただいて、また議論するといった流れになるんではないかと思う。ひとまず今日のところは、長時間にわたりご議論していただき感謝申し上げる。これにて進行を事務局にお返する。

[事務局長]長時間にわたり、ご審議いただきまして感謝申し上げる。今日は色々と貴重なご意見をたくさんいただいたと思っている。これをもって内閣府のヒアリングの方を受けてまいりたいと思っているし、今後も会議の開催と合わせ個別の協議をさせていただきたい。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げる。

（以上）